



福岡県医師会第869号(地)

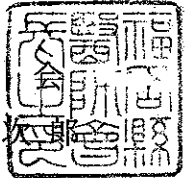
平成14年 8月 2日



各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師

会 長 関 原 敬 次



厚生労働省厚生科学審議会感染症分科会における
「E型肝炎に関する資料」の送付について

季夏の候 貴職益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、7月26日に開催された標記分科会にて、E型肝炎の臨床的・疫学的特徴、豚肉の安全性等について説明が行なわれたことを受けまして、厚生労働省健康局結核感染症課、医薬局食品保健部監視安全課連名で、各都道府県、政令市、特別区衛生主管部（局）感染症担当課、食品衛生担当課宛に、その資料の送付がされた旨、日本医師会より別紙のとおり通知がありましたので送付いたします。

つきましては、貴職におかれましても本件についてご了知いただき、特に感染症法に基づく医師の届出（HEV肝炎ウイルスによる急性肝炎は4類感染症全数把握）等について、貴会管下関係医療機関等への周知方、よろしくご高配の程お願い申し上げます。

(地 9 4 F)
平成 1 4 年 7 月 2 9 日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

雪 下 國 雄

厚生労働省厚生科学審議会感染症分科会における「E型肝炎に関する資料」
の送付について

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、厚生労働省厚生科学審議会感染症分科会が7月26日に開催され、吉澤浩
司委員（広島大学医学部教授）から、別添の資料に基づきE型肝炎の臨床的・疫学
的特徴、豚肉の安全性等について説明が行われました。これを受けて、厚生労働省
健康局結核感染症課、医薬局食品保健部監視安全課連名で、各都道府県、政令市、
特別区衛生主管部（局）感染症担当課、食品衛生担当課宛に、その資料の送付につ
いて、事務連絡がなされました。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただき、特に感染
症法に基づく医師の届出（HEV肝炎ウイルスによる急性肝炎は4類感染症全数把
握）等について、貴会管下関係医療機関等への周知方よろしくお願い申し上げま
す。

事 務 連 絡
平成 14 年 7 月 29 日

社団法人日本医師会
雪 下 國 雄 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長

厚生科学審議会感染症分科会における E 型肝炎に関する資料について

標記について、別添のとおり各都道府県、政令市、特別区衛生主管部（局）
担当課あて、通知いたしましたので、お知らせします。

なお、感染症法に基づく医師からの届出の周知等につき、引き続き関係者へ
の指導方お願いいたします。

事 務 連 絡
平成 1 4 年 7 月 2 6 日

各
都道府県
政 令 市
特 別 区

衛生主管部（局）
感染症担当課
食品衛生担当課 御中

厚生労働省健康局結核感染症課
医薬局食品保健部監視安全課

厚生科学審議会感染症分科会における E 型肝炎に関する資料について

本日、標記分科会が開催され、吉澤委員から別添の資料に基づき E 型肝炎の臨床的・疫学的特徴、豚肉の安全性等について説明が行われましたのでお知らせいたします。

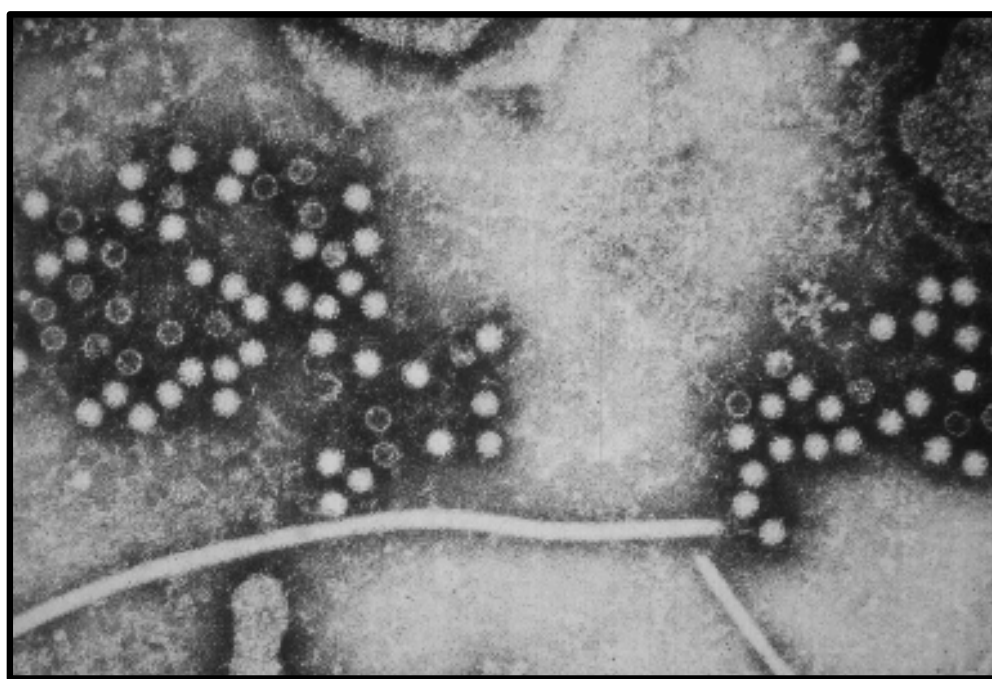
厚生労働省としては、検査技術の一層の普及や、農林水産省等との連携をもとに、必要な調査研究を進めていくこととしております。

なお、感染症法に基づく医師からの届出の周知等につき、引き続き関係者への指導方お願いするとともに、検査体制の整備についてもよろしくご配慮お願いいたします。

E型肝炎について

厚生科学審議会感染症分科会資料
2002.07.26

E型肝炎 ウィルス (HEV)



新聞報道の概要

- 7月 21日付
 - 1990年以降、3名死亡
 - 国内感染が疑われ、動物由来感染症の疑い
- 7月 22日付
 - ブタ血清でHEV検出 (3 / 186)
 - ヒト例と遺伝子型近似
- 7月 23日付
 - 日本人血清中HEV抗体保有率 5.4% 加齢に伴い増加傾向

E型肝炎、A型肝炎、C型肝炎の比較

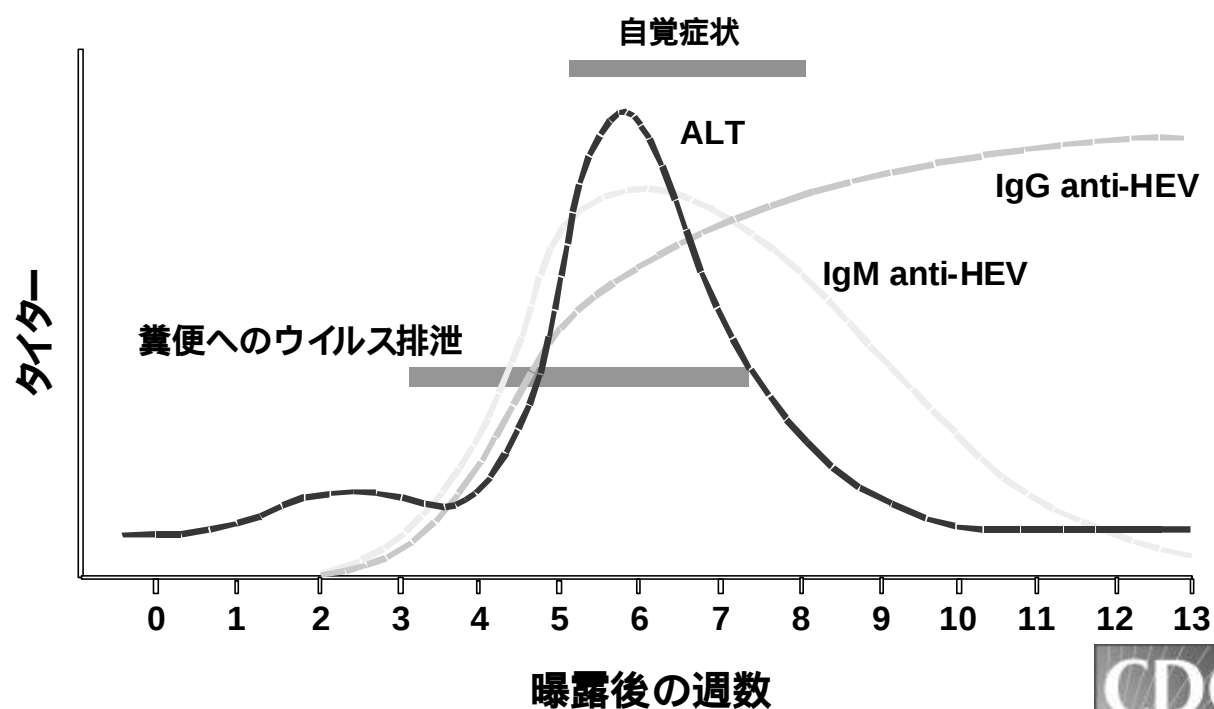
	E型肝炎	A型肝炎	C型肝炎
主な感染経路	経口感染		血液
臨床的意義	大部分は不顕性感染。 一部は急性肝炎を起こすが大部分は完治。 妊婦は重症化しやすい。	一部は不顕性感染。急性肝炎をおこすが完治。 高齢者は腎不全を伴うことがある。	一部は慢性化し肝硬変・肝がんへ進展。
キャリア (持続感染者)	なし		あり
劇症肝炎	あり		まれ
患者数	6例 (平成11 -13年)	1592例 (平成11 -13年)	100～200万人のキャリア
死亡数・死亡率	死亡数 3例 (平成7 -12年) 死亡率1 - 3% (妊婦の場合15 -25%)	死亡数 108例 (平成7 -12年) 死亡率 0.1 - 0.2%	年間約4.5万人の肝がん、肝硬変 死亡の約8割がC型肝炎
治療法	急性期の対処療法		慢性期はインターフェロン療法等
検査法	原因の同定 1983年 ELISA法 (2000年に高感度 法開発。1992年に開発され た方法は低感度、誤差大)	原因の同定 1973年 診断法開発 1973年	原因の同定 1988年 検査方法の確立 1989年 HCV抗体検査 1989年 核酸増幅法検査 (NAT) 1999 年

E型肝炎 – 臨床的特徴

- 潜伏期： 平均 40日
分布 15 - 60日
- 死亡率： 1% - 3%
(妊婦 15% - 25%)
- 重篤度： 加齢に伴い増加
- 持続感染： 現在までの知見ではなし



E型肝炎感染 典型的な血清学的所見の推移



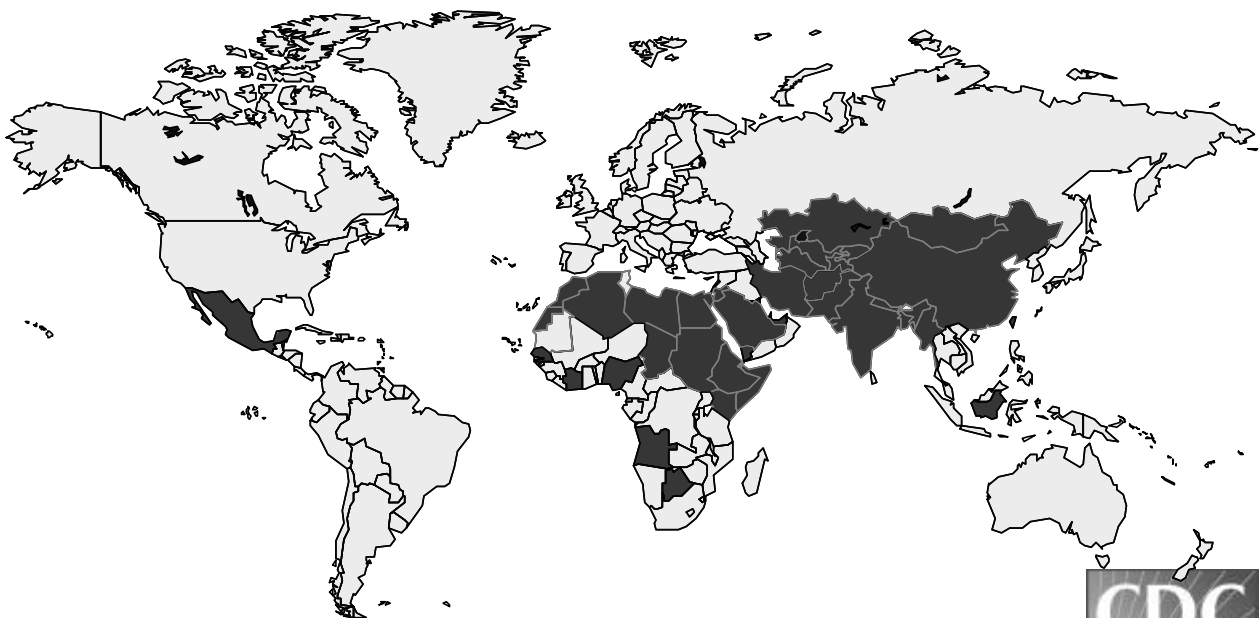
E 型肝炎の疫学的特徴

- 大部分の集団発生は、糞便で汚染された水を飲むことによって起こる
- ヒト-ヒト感染は極めて稀
- 米国症例はE型肝炎流行地域への旅行歴が通常あり
- 妊婦が感染した場合、劇症化する率が高い



E型肝炎の地理的分布

集団発生及び散発的非ABC肝炎の25%以上がE型肝炎と考えられる地域



E型肝炎の集団発生が報告されている主な国

インド（ニューデリー）	1955-1956年	30,000例
	河川の氾濫後の市中飲料水への混入	
ミャンマー	1976-1977年	20,000例
	妊婦において18%の死亡率	
インド（カシミール）	1978年	52,000例
中国	1986-1988年	100,000例
ソマリア	1988-1989年	11,000例
メキシコ	1988-1989年	4,000例



E型肝炎流行地域への旅行者向け 予防と対応策

- 清潔の保証がない飲料水（氷入り清涼飲料を含む）、非調理の貝類、自分自身で皮をむかない非調理の果物、野菜を摂らないこと
- 西欧諸国のドナーから作られたγグロブリン製剤は感染防御能が無いこと
- E型肝炎流行国のドナーから作られたγグロブリン製剤の有効性は分からないこと
- ワクチンは開発中



E型肝炎ウイルス (HEV)における ブタ肉の安全性について

生後 2 - 3ヶ月のブタの血清からHEVが検出されたとの研究結果が報告されているが、HEVは、その後、ブタの成育とともに体内から消失し、と畜処理される生後 6ヶ月程度のブタからは検出されないため、ブタ肉の安全性には特段問題ないと考えられる。

文献

- 1 .Xiang-Jin Meng, Zoonotic and xenozyoonotic risks of the hepatitis E virus, Infect Dis Rev, 2000; 2(1): 35-41
- 2 . Hiroaki Okamoto et.al., Analysis of the Complete Genom of Indigenous Swine Hepatitis E Virus Isolated in Japan,Biochemical and Biophysical Research Communications, 2001;289: 929-936
- 3 .Meng HJ, et al., A novel virus in swine is closely related to the human hepatitis E virus, Proc Natl Acad Sci USA, 1997; 94: 9860-9865